

◆市政運営の基本姿勢と重点施策

I 安心・支え合い最優先

市民の安全・安心の確保と、地域での支え合いを醸成していく取り組みを進める。

1. 「災害に強い箕面」の実現 【予算額 52,307 千円】
  - 避難所の運営体制の構築と機能強化、市役所内部の防災体制の再編成や機能強化を集中的に実施し、来年1月、本市初の全市一斉防災訓練に向けて、市民の防災意識の向上を図る。
  - 地区福祉会や自治会をはじめとする地域の活動団体(地区福祉会、青少年を守る会、コミュニティセンター管理運営委員会、消防団、自治会など)を中心に、小学校区単位の地区防災委員会の設立を支援。
2. 「多世代交流センター」と「新・永寿園」福祉複合施設の整備 【予算額 1,190,798 千円】
  - 旧清掃工場跡地に「多世代交流センター」(新・松寿荘、子育て支援センター)と養護老人ホーム「新・永寿園」を整備。整備・運営は民間法人が一体的に行う。来年4月オープン予定。
3. 市立病院における医療の充実と赤字の圧縮 【予算額 246,825 千円】
  - リハビリテーション部門の人員を増やし、現在の週6日実施を見直して一年365日休まず回復期リハビリテーションを実施するなど、医療サービスの充実により収益を向上させる。平成28年度の独立採算の運営に向けて、新年度は前年度から2.6億円の赤字を圧縮(当初予算比)。
4. 防犯灯のLED化の促進 【予算額 26,460 千円】
  - 電力消費量の削減と維持費削減をめざして、今後3年間で全ての防犯灯(6,700灯)をLED化。このため、自治会の防犯灯改修に対する補助率を75%から90%に大幅拡大。
5. 北部地域の消防・救急力の強化 【予算額 29,023 千円】
  - 本市北部地域(止々呂美・箕面森町)を含めた新たな消防拠点として、豊能町と共同で消防庁舎を整備。
6. 自転車の安全対策の強化・拡充 【予算額 36,987 千円】
  - 車から自転車と歩行者を守る専用道路を新設するなどハード対策を実施。また、箕面警察署と連携した取り締まりの強化、事故を実演する「スクエアストレート」など子どもたちを対象とする新たな安全教育を拡充。
7. 上下水道における経営改革
  - 「料金の値上げをしないこと」かつ「施設・管路の耐震化と更新を着実に進めること」の2点を目標とする経営改革プランに基づき、平成32年度までに2.4億円の年間経費を削減する経営体制を構築。今後は、施設・管路の維持に必要な投資的経費を精査し、上水道は投資と収益のバランスを勘案しながら、さらなる利用者への還元方策を検討し、また、下水道は料金の値下げも視野に入れて、着実な経営改革を進める。

II 子育てしやすさ日本一

子育てがしやすく、子どもたちが健やかにのびのびと育つ環境を整える。

1. 中学校給食の導入 【予算額 41,300 千円】
  - 全中学校で、自校調理方式による中学校給食を導入。施設一体型小中一貫校の2校は本年9月から、6校は実施設計を経て来年9月からスタート。
2. 待機児童ゼロをめざした保育所整備 【予算額 217,358 千円】
  - 本年4月に彩都で定員80名の保育園をオープン。
  - 平成25年度のオープンをめざして、箕面森町で定員70名(予定)の新・保育園の整備準備に着手。
3. 子育て支援の新展開
 

**私立幼稚園における長時間保育の拡大や支援教育の充実** 【予算額 396,653 千円】

  - 長時間保育を実施する私立幼稚園に通う園児の保護者、長時間保育や支援教育を実施する私立幼稚園に補助金を交付し、私立幼稚園における長時間保育の拡大と支援教育の充実を図る。

**子育て支援センターの全市展開**

  - 現在、2か所(萱野、箕面)の子育て支援センターについて、全8か所への拡大をめざす。
  - 来年4月にオープン予定の「新・松寿荘」に併設して、3か所めの「子育て支援センター」を開設。
4. 教職員人事権の移譲 【予算額 6,667 千円】
  - 豊能地区3市2町で取り組んできた全国初の教職員人事権の移譲を実現し、箕面の子どもたちの先生になりたい、箕面にこだわりたいと強く希望する優秀な人材を確保・育成。

5. 長期休業中における子どもの居場所の確保 【予算額 2,881 千円】
  - 夏季休業中、小学校の施設の一部を子どもたちに開放する試行事業を継続。また、対象を5校から全小学校(14校)に拡大。

III 緑・住みやすさ最先端

豊かな緑を守り、便利で住みやすく、元気で活力ある箕面をめざして、まちづくりを進める。

1. 山なみ景観の保全 【予算額 2,072 千円】
  - 景観を阻害する危険性が特に高いエリアを絞り込み、都市計画法や景観法を活用する新たな規制を導入。
  - 墓地の経営許可などの権限が大阪府から本市に移譲されることを契機として、設置場所を学校、店舗などの敷地から300メートル以上離れた場所に限るなど、従来大阪府内の一律ルールを超えた、本市独自の墓地開発規制を導入。
2. 新たな局面を迎える北大阪急行線の延伸 【予算額 450,304 千円】
  - 国、大阪府、鉄道事業者とともに、鉄道の基本設計、測量調査、地盤調査などに着手。今後、平成25年度末に着工できるよう、都市計画決定や事業許可に向けた手続きの準備を進める。
  - 延伸に伴い、必要となる新駅予定地周辺のまちづくりについて、地権者の意向調査や整備手法のあり方を調査・検討。さらに、「交通施設整備基金」に1億円を積み立て(計30億円超)。
3. 箕面駅前第一駐車場・駐輪場のPFI手法によるリニューアル 【予算額 4,638 千円】
  - 駅周辺の回遊性の向上と賑わいの創出をめざして、老朽化した箕面駅前第一駐車場・駐輪場のPFI手法によるリニューアルに向け、民間事業者の公募・選定を実施。
4. 桜井駅前地区の再整備 【予算額 1,765 千円】
  - 地元との連携を密にし、「歩いて暮らせるまちづくり」をコンセプトに、桜井駅前地区の再生を進める。
5. 小野原への公共施設の新設 【予算額 772,839 千円】

**「小野原多世代地域交流センター」の整備**

  - 本年10月に小野原東でオープン。高齢者の豊かな経験を活かした次世代との交流や、世代を超えたふれあいの場とするため、指定管理者は(公社)箕面市シルバー人材センターを予定。

**「多文化交流センター(仮称)」の整備**

  - 来年5月、図書館を併設して小野原西にオープン予定。国際色豊かな地域の特性を活かすため、指定管理者は(財)箕面市国際交流協会を予定。
6. 彩都の国文都市6号公園の整備 【予算額 150,000 千円】
  - 小中一貫校「彩都の丘学園」の子どもたちがワークショップで意見を持ち寄った提案に基づき、自然林や地形を活かした園路、展望施設など、子どもたちがのびのびと遊べる公園を整備。
7. 「オレンジゆずるバス」の実証運行 【予算額 150,764 千円】
  - 市民参画による地域公共交通活性化協議会において、店舗とのタイアップやまち巡りの企画など、様々な利用促進策を検討、実行しながら来年4月の本格運行をめざす。

◆市政運営を着実に実行するために

市役所改革・行政改革の断行

市役所が実行力と機動力を発揮し、子どもたちにツケを回さない行財政運営と、市民視点の使いやすい市役所をめざす。

1. 図書館サービスの充実と効率化 【予算額 110,359 千円】
  - 「多文化交流センター(仮称)」内に7館めの図書館を建設するほか、図書購入費の倍増、ICタグを利用した簡単・便利な自動貸出機の運用開始などサービスを充実し、かつ、現在の6館体制にかかっている運営経費よりも少ない経費で運営する徹底的な効率化を実行。
2. 公共施設における管理業務の総合一括委託 【予算額 111,000 千円】
  - スケールメリットによる経費削減をめざし、48施設の管理業務を総合一括委託(効果額は26,326千円/年)。
3. 指定管理者の管理運営に対する外部評価の導入 【予算額 626 千円】
  - 公共施設におけるサービスの向上をめざして、指定管理者制度を導入している全ての公共施設において外部評価を導入し、より使いやすい公共施設とするためのチェック体制を整備。